

4 「カーボンゼロ社会の京北SDGs農業研究会(仮)」の開催および液肥散布実証

2050年カーボンゼロ社会の実現にあたっては、化石資源に頼らず、再生可能エネルギーをはじめ、肥料も有機資源からまかなうことが求められます。そこで、地元の農家の皆様の有志による研究会を立ち上げ、**生ごみからできる液肥や、農地で再生可能エネルギーを発電できるソーラーシェアリング**などのスマート農業について理解を深め、導入可能性やこれらを利用した**農産物のブランド化**などを検討します。一部の農家の方には、液肥を水田や畑で使ってみて頂き、継続的に使えるか確かめる予定です。

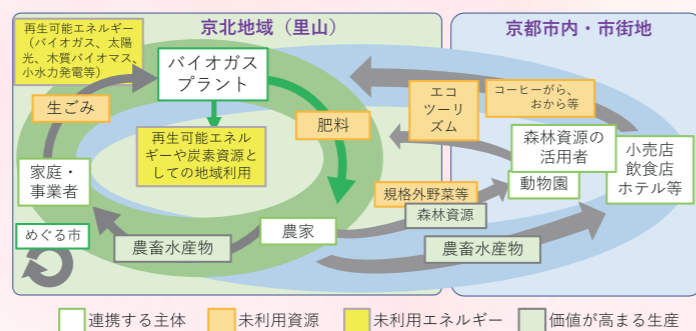


5 資源循環システムのモデルを

京北地域をモデルに、**全国の中山間地域にも波及**できるような資源循環システムモデルを検討します。バイオガスプラントを核とする循環については、プラントの規模や、どのような原料をどこから集められるかなどを検討し、持続可能な方法を模索したいと考えています。また、食品リサイクルで京北地域と市街地(レストランやホテル、動物園、商業施設等)を結ぶプロジェクトを試行し、社会課題解決やSDGs達成につなげます。再生可能エネルギーを生み出す水力発電や、廃棄野菜をえさにウニを陸上養殖する実証などにも挑戦します。

この事業で目指す資源とエネルギーの循環システム

調査や実証を通じて、京北地域内の循環や、市街地と連携した循環のしくみを検討します。地域の未利用資源を利用できれば、エネルギーや資源面で自立した持続可能な先進地域として脱炭素社会をリードすることができます。そのようなしくみの中でつくられる農産物等をブランド化し、地域産業の活性化につながるよう試行します。



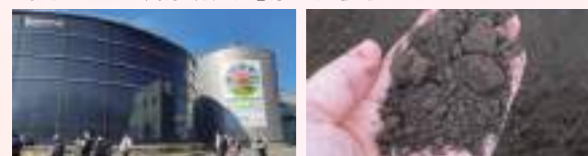
6 試行錯誤のプロセスも発信

このような取組をプロセスも含めて全国に発信するため、毎月第四土曜14-16時にはオンサイト(ことす)とオンラインにて、「京都めぐるSDGs問答」を実施します。**地元の小中高生も活躍**する予定です!

活動報告

- 2021年11月16・17日 第一回「京北SDGs農業研究会」視察(佐賀市、みやま市、大木町)
- 2021年11月27日 第一回「京北めぐる市」
- 2021年12月10日 第一回「京北SDGs農業研究会」
- 2021年12月23日 第一回検討委員会開催
- 2021年12月25日 第二回「京北めぐる市」

「京北SDGs農業研究会」第一回視察



廃校につくられたバイオガスプラント「ルプラン」(みやま市) 下水汚泥を好気発酵させた堆肥は市民に好評で毎年完売(佐賀市下水浄化センター)

お問い合わせ (一社)びっくりエコ研究所(梶谷・前田)

電話:075-748-1986(ことす)

メール:mezase530@gmail.com

SDGs KYOTO TIMES 検索



この印刷物は、自然エネルギー(バイオマス発電5.6kWh)を使用して印刷しました。

京都めぐるSDGs問答 毎月第4土曜 14~16時 @ことす&オンライン



1月22日
環境研究のバイオニア
内藤正明先生 & 高月紘先生



2月26日
環境政策を研究面からリードする
酒井伸一先生 & 環境省の土居健太郎氏



3月26日
京都大学元総長・俳人
尾池和夫先生 ほか

お申込みは
こちら



活動予定

- 1月22日 第三回「京北めぐる市」
- 1月25・26日 第二回「京北SDGs農業研究会」視察(兵庫県)
- 2月初旬 生ごみ分別モニター募集 ●2月中旬 第二回検討委員会開催
- 2月26日 第四回「京北めぐる市」 ●3月26日 第五回「京北めぐる市」

始動!!

京北めぐるプロジェクト

里山から資源やエネルギーの自立を目指して、**実証事業を始めます!**

この度、(一社)びっくりエコ研究所(代表:京都大学准教授浅利美鈴)は、環境省から事業委託を受け、京都市や京北地域の皆様と連携・協力し、地域資源を徹底的に活用して循環させ、地域産業の発展につながるような実証事業等を始めます。

京北では私たちが
窓口です!
気軽にお問合せ
ください。



前田 真一

梶谷 彰宏

未来の里山を創る、〈6つの実証事業〉

1 3R拠点モデル 「京北・資源めぐるステーション(仮)」

※3R(スリーアール)とは、
リデュース(Reduce)、
リユース(Reuse)、
リサイクル(Recycle)の
3つのR(アール)の総称です。

京都里山SDGsラボ「ことす」(元京北第一小学校)を拠点に、まだ使えるけれど不要になったものなどを交換できる「**京北めぐる市**」を毎月第四土曜に開催したり、資源類の拠点回収を試行したりします。多くの住民の方に足をお運び頂き、わいわいがやがやお話しながら、盛り上げていきたいと思ひます。また、ほとんどの「ごみ」が資源になり得ることを、皆さんに納得して頂けるように、いろいろな仕掛けも考えていきたいと思ひます。

2 3Rの理解を深める 参加型・体験型イベントの開催

ごみやSDGs・持続可能性について深掘りする小中学校や地域向けの出前授業**なども実施**。社会課題の解決を「自分ごと」や「地域ごと」にして頂くきっかけにできればと考えています。

3 生ごみ分別モニターに 参加して下さる家庭や団体を募集

生ごみを分別回収し、メタン発酵して、肥料(液肥)とエネルギー(バイオガス)にリサイクルすることができます。京北地域にて、今年度は生ごみ分別モニターを100世帯(団体)募集します。**2月号にて募集しますので、是非ご協力!**「ことす」に、ミニミニ「バイオガスプラント」を設置します。モニターの皆様が出して下さった生ごみは、このプラントで処理!できた液肥は、ご自由にお持ち帰り頂けるようにする予定です。

バイオガスとは?

メタン菌の生きている液体の中に生ごみを入れると、メタン発酵がおこり、バイオガスと液体に分解されます。バイオガスは燃料に、液体は肥料に変身!化石資源を使わずに有機物からエネルギーと肥料をつくりだすリサイクル技術です。



野菜や果物など生ごみを
バイオガスプラントへ投入



バイオガスプラント
(ミニミニ)を「ことす」に設置



バイオガスでお湯を沸かして
お茶を入れたり、分解後の液体は
肥料として使ったり!

裏面に続きます!

ことす
めぐる
レター
|
KOTOS
Meguru
News Letter

Vol.1

2022年1月

発行
(一社)びっくりエコ研究所

京北めぐる プロジェクト について

正式な事業名称:
環境省令和3年度脱炭素化・先導的廃棄物処理システム実証事業(多様な地域資源の有効活用に資する技術実証事業)「生ごみバイオガス化施設のオンサイト利用による脱炭素型農業を核とした里山・都市循環」

実施主体:
(一社)びっくりエコ研究所

協力・連携:
京都超SDGsコンソーシアム、京都里山SDGsラボ運営協議会等

期間:
2021年11月~

里山暮らしの温故知新
 京都市北部山間地域 ～ 京都里山めぐる展 ～

先人の知恵がめぐりめぐる！成長型の企画展

期間 11月27日～2月中旬 場所 〈ことす〉アップサイクルギャラリー

11月27日にオープンした「ことす」の「アップサイクルギャラリー」では、「ことをおこす」事始めとして、私たちが目指すべき循環型社会のヒントがあふれている「里山の暮らし」に焦点をあて、京北をはじめ京都市北部山間地域で継承されてきた「先人の知恵」の数々を紹介、展示しています。経済や便利さを追求してきた現在の暮らし方は、新しい物や情報で日々更新され、自然環境や地域社会との共存の中で育まれてきた尊い知恵が失われつつあります。今、時代はめぐり、この豊かな里山の暮らしから、進むべき未来のヒントを先人から学び、活かすきっかけとして、この「京都里山めぐる展」をご覧いただくと考えています。

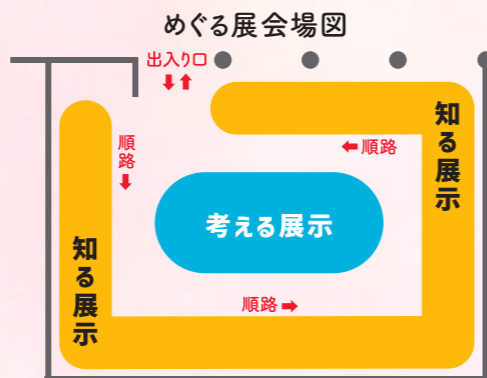
めぐる展には“2つの展示コーナー”があります！

地域を紹介する

知る展示

京都市北部山間地域から出展して頂いた各地域のアレコレを紹介する展示です。会場の外周部に、地域の景観・風景や、特産品、お祭り、行事などを紹介するパネルや写真、現物を展示しながら、各地域の魅力を伝えています。

※京都市北部山間地域とは、以下の地域を指します。
 右京区：京北・宕陰・水尾 北区：小野郷・中川・雲ヶ畑
 左京区：大原（百井）・花脊・別所・広河原・久多



過去から未来を考える

考える展示

各地域から先人の知恵として選出されたモノやコトを「過去」を観(み)て、「現在」と比べて「未来」を考える、来場者参加型の展示です。会場中央に6セットのステージと3つの机を配置。各展示物の前には「過去・現在」を解説し「未来」を考える机には、スケッチブックを用意しており、皆さんが想う素敵な未来を書いて頂けます。



過去 現在 未来
 観(み)て 比べて 考えて

私たちが普段何気なく使っている「モノ」は、その時代に合せて進化してきました。この「考える展示」では、過去～現在へと京都市北部山間地域に保管されてきた資料が展示されています。過去の知恵を読み解き、未来の暮らしを予想してみてください！



11月27日の「めぐる市」では、来場を頂いた地域在住の中学生など、地域内外の方々から多くの未来予想案を書いて頂きました！

これからも知恵がめぐる！

会場の展示品は、期間中(11月～2月)に入れ替えをしながら、里山で育まれた先人の知恵をめぐらせて紹介します！

展示内容は、衣食住を大枠に、里山の暮らしをかたち創ってきた地域の仕事や祭り、子供たちの学びなどを切り口として、地域で継承されてきた品々をテーマ別に出展。現代社会で見落とされてきた様々な知恵を展示としてめぐらせながら、来場された皆さまに、古くて新しい出会いと発見を提供できればと考えております。展示品については「我が家にこんなものがあるよ」「うちの地域にこれがある」等々、皆さまからのご提案も大歓迎！お待ちしております！



知る展示



考える展示

